

平成28年度 熊本県教育委員会指定

「生きる力」を育む研究指定校事業【心の教育】研究推進校

阿蘇市立阿蘇中学校 公開授業

「豊かな心」と「確かな学力」の 育成を目指して

～学習に対する意欲や関心を高める工夫を通して～



はじめに

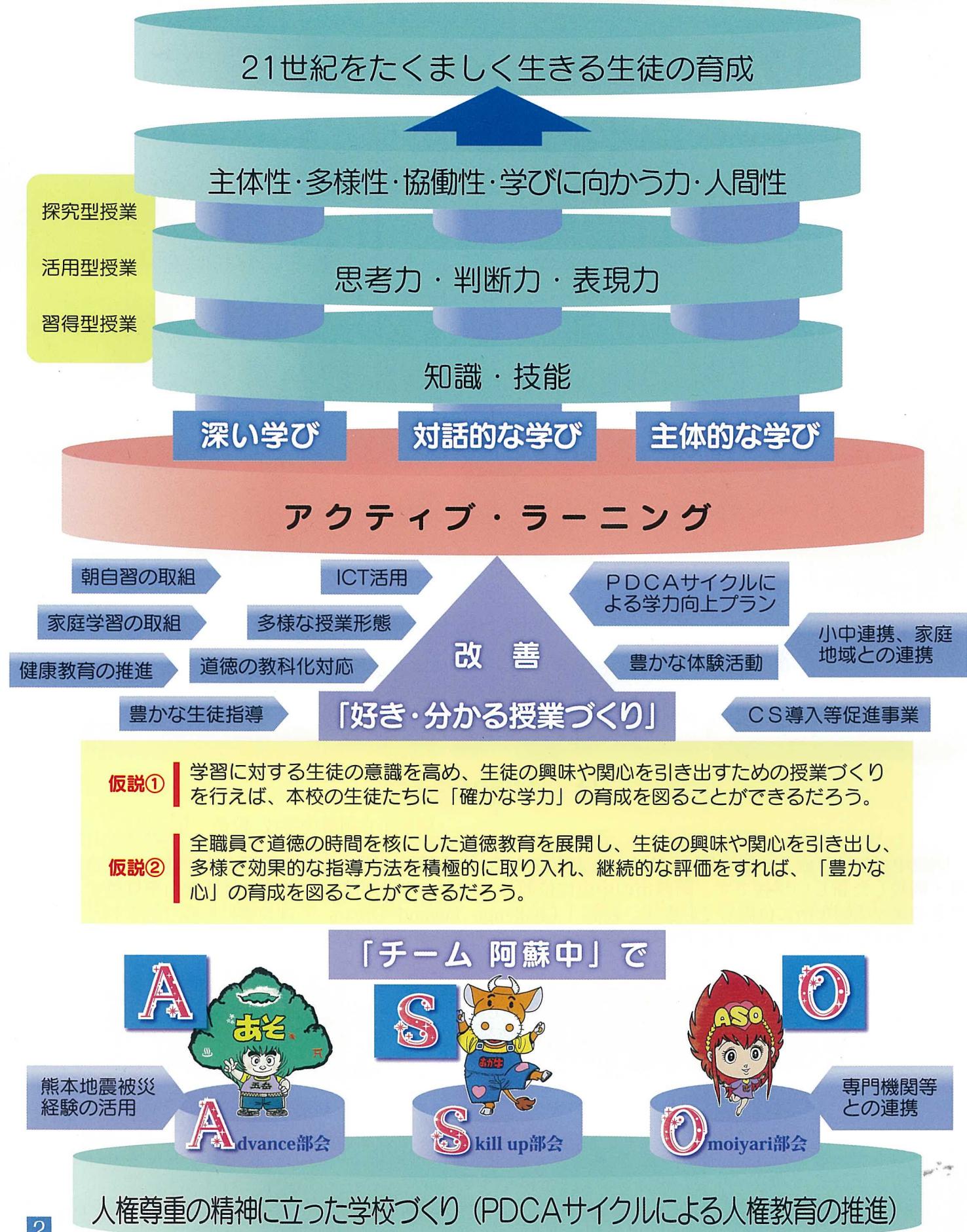
阿蘇市立阿蘇中学校 校長 星山 晃

阿蘇中学校は平成24年4月に、ともに伝統校である「旧阿蘇中学校」と「旧阿蘇北中学校」を統合して創設・開校した新しい学校です。阿蘇市の中央に位置し、校舎からは阿蘇五岳と雄大な外輪山を見渡すことができる風光明媚な所に位置しています。校訓「Challenge Legend Dream」は校歌にも織り込まれ、この具現化に向け学校教育目標「One for All, All for one」のもと「チーム阿蘇中」として一丸となって諸教育活動に取り組んでいます。

本校は平成25年度に熊本県教育委員会より「道徳教育総合支援事業（道徳教育用郷土資料「熊本の心」活用事業）」の研究指定を受け、「伝え合う言語活動の工夫」をサブテーマに九州北部豪雨（平成24年7月）での被災経験も活用しつつ研究を進め、これまで道徳教育を継続してきた経緯があります。そして、今年4月には熊本地震に被災し、本校校区も甚大な被害を受けました。失ったもの、悲しかったことは大きかったですけれど、「命や人とのつながりの大切さ」や「感謝する心」など生徒の心を揺り動かしたものも大きなものがありました。今、この災害で得た教訓を日々の諸教育活動に生かしているところです。

さて、今年は熊本県教育委員会から平成28年度「生きる力」を育む研究指定校事業（心の教育）研究推進校の指定を受けました。研究1年目であり、「道徳の時間の教科化への対応」に向けた本校版論点整理といった位置づけで、課題が多く、成果も十分ではありませんが、皆様のご指導やご助言で平成31年度からの完全実施に向けた確かな方向性を見出したいと思います。最後になりましたが、これまでご指導、ご支援いただきました関係の皆様方に厚くお礼を申し上げます。

平成28年度 阿蘇中学校 学校研究全体構想図
研究テーマ 「豊かな心」と「確かな学力」の育成を目指して
～学習に対する意欲や関心を高める工夫を通して～



道徳教育推進プラン（仮説②の具体的検証プラン）

豊かな心を持つ生徒

「ふるさと・阿蘇を愛し、よりよく生きる生徒の育成」

重点的に指導する

内容項目

- ・自主、自律、自由と責任 (A-1)
- ・郷土愛 (C-16)
- ・思いやり、感謝 (B-6)
- ・生命の尊さ (D-19)

研究のねらい

- ・他者の多様な考え方を取り、自他の尊さを受け止める。
- ・自分の考え方を他者に伝えたり、主張したりする力を高める。
- ・阿蘇の大地と人に学び、ふるさとを愛する気持ちを育む。

深い学び

対話的な学び

主体的な学び

アクティブラーニングの視点を大切にした道徳授業

研究の柱と具体的実践事項

熊本県道徳教育推進協議会からの提言

平成28年度からの「特別の教科 道徳」（道徳科）の実施に向けて より

道徳科の授業

- ・実態調査
- ・ICTの活用
- ・学習指導過程の工夫とカードの使用
- ・発問の工夫

道徳科の評価

- ・授業後の記録（評価）

道徳科における指導体制

- ・複数指導体制による授業
- ・「道徳の足あと」の学年統一掲示

道徳科における家庭・地域との連携

- ・災害ボランティアとの連携
- ・地域人材による生き方講話
- ・全校一斉道徳授業参観
- ・通信等での発信
- ・被災経験の振り返り
- ・SC、SSW、ほっとスクールASOとの連携

● 道徳科の授業

生徒が、自己を見つめ、自己の生き方や人間としての生き方についての考え方を深めるために、多様な指導方法を活用します。



1、道徳の授業の展開

生徒が学習の流れを把握し主体的に学習を進められるよう、学習指導過程を「みつめる」「とらえる」「かさねる」

「つなげる」の4段階に設定し道徳の授業に道徳カードの活用を試みています。また、読み物教材の登場人物への自我関与を中心とした授業実践を進めています。

読み物を読み取るだけの授業から、読み物をもとに道徳上の問題を考える授業へと転換を図れるよう、中心発問にもこだわりました。さらに、効果的なICT活用にも力を入れています。

道徳学習→
カード



↑道徳学習カードを使用した板書

目標は、一度もたらえずに、できる目標を少しずつ変えてジャンプアップしていったらいいと思います。今日学習したことを生活に活かしていきたいです。

↑↓授業後の生徒の日記

課題と今後の方向性

↑ICT活用 写真も交えて教師の説話をを行う様子

考える道徳の授業への転換を進めている途中であり、ICT活用も含めて検討を重ねていきます。また、道徳の授業においては、道徳学習カードに合わせた適切な発問や指示についてもこれからさらに研究を進めていきます。

● 道徳科の評価

児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすことができる評価活動に努めます。



1、授業後の記録（評価）

熊本県教育行動指標「認め、ほめ、励まし、伸ばす」を基本姿勢に、生徒が自らの成長を実感しさらに意欲的に取り組めるよう、道徳ファイルを活用しています。

生徒への返しを、授業を担当した職員が記述式で行っています。



←道徳ファイル

課題と今後の方向性

今後はこの道徳のファイルをどのように学期末の評価に生かしていくのかが重要になっていきます。

生徒の道徳性の成長の様子を継続的に把握し、次の指導に生かすことができる評価の在り方について、今後も研究していきます。



↑記述式の評価で生徒に返しを行っている

● 道徳科における指導体制



校長や教頭、他教職員との協力的な指導などについて工夫し、道徳教育推進教師を中心とした指導体制の充実を図ります。

1、複数指導体制による授業の実施

阿蘇中学校では、それぞれの教員が得意分野を生かした道徳の授業を行っています。担任とALTや養護教諭とのチーム・ティーチング、学年部教職員複数体制によるローテーション授業等の協力的な指導に取り組んでいます。



↑ ALTをゲスト・ティーチャーとして招いた道徳
(C-17日本人としての自覚)



↑ 養護教諭による道徳 (B-7礼儀の意義)

2、学年統一掲示

学級掲示として道徳の足あとを学年で統一して掲示し今までの道徳についても振り返られるようにしています。



↑ 学級掲示 道徳の足あと

課題と今後の方向性

多様な指導法に触れられるローテーション授業は生徒にとっては楽しみな時間となっています。今後は年間指導計画に担当者を明記したり、管理職や地域の人材を積極的に活用したりすることを目指していきたいと考えています。また、その場合の評価のあり方についてもこれから研究対象となります。

● 道徳科における家庭・地域との連携



「熊本の心」を活用した道徳科の授業を地域や保護者に公開したり、道徳科の授業に家庭や地域の人々の参加や協力を得たりするなど、家庭や地域との連携を図ります。

1、全校一斉道徳授業参観

年間一度は全校一斉の道徳の授業参観を行い、授業を通して保護者との連携を図っています。さらに、各クラスの学級通信では道徳での生徒の学びを掲載するなどしています。また、「熊本の心」を活用した道徳の授業を学期1回は実施しています。



↑ 授業参観での道徳の授業



↑ 道徳の学びを知らせる学級通信



← 「熊本の心」を活用した授業「一足の古たび」



↑ 関連した本の紹介

← 学年主任による道徳 (C-15役割の自覚)

2、地域人材や災害ボランティアによる「生き方講話」

夏休みに行われた地域未来塾には、震災後に学習面での不安を抱えていた生徒のために、全国からたくさんの方がボランティアで学習支援に来てくださいました。学習会後、いろいろな経験を持つボランティアの方から「生き方」について話を聞く時間を設けました。



↑学習支援の様子



↑学習支援ボランティアによる「生き方」講話



3、熊本地震の被災経験の振り返り

震災後、学校に戻ってきた生徒からは、震災を通して、たくさんの学びや感謝の言葉が聞かれました。その気持ちを全体で共有し、今後に生かしていくために「阿蘇中感謝祭」を開きました。



↑感謝状授与
自衛隊・阿蘇市福祉協議会へ

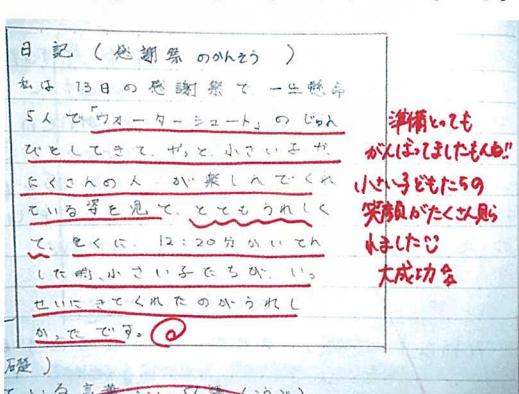
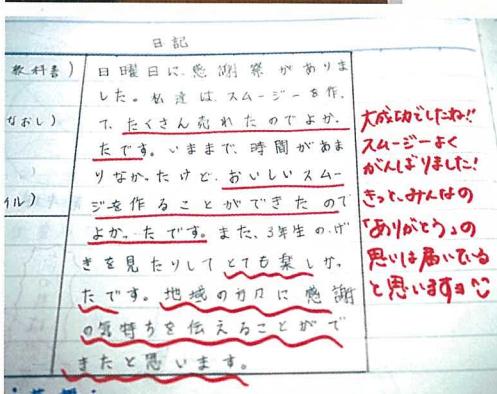


↑黙祷を捧げた後バルーンリリース

←感謝状は「支えてくださった皆さんへ」も制作し学校掲示し感謝の心を忘れないようにしている。



↑震災から学んだことの作文発表



↑感謝祭後の生徒の日記

また、本校ではすべての生徒の心理的負担の軽減や居場所づくりのため、積極的に S C や S S W、専門機関の活用を行っています。生徒の心のケアに関して阿蘇市適応指導教室「ほっとスクール A S O」(H28.9設置)と連携する新たな取り組みも始まっています。このような外部機関との連携は、すべての生徒が課題を自分との関係で捉え、その解決に向けて考え続けようとする意欲や態度を育てるうえで大切であると考えています。

課題と今後の方向性

現在、コミュニティ・スクールの立ち上げに努めています。道徳の授業においても人材の発掘とそのつながりをまず第一に考えて積極的に地域人材を活用していきたいと考えています。

また、授業者との調整や打ち合わせの時間の確保も課題の一つです。さらには、保護者や地域

今後の取り組みとして

アクティブ・ラーニングの視点に立つ道徳科の授業プラン

深い学び

対話的な学び

主体的な学び

よりラーニングに

みつめる



- ①資料の内容を理解させる
- ②授業のねらいに即して最も考えさせたいことを課題化し設定する

とらえる



- ③自分の考えを持たせる
- ④自分の考えを表現させる

かさねる



- ⑤考え方の多様性を受容し他者と共有させる
- ⑥自分の既存の価値を再構築させる

つなげる



- ⑦自分のこととしてとらえさせ、考え方を発展させる
- ⑧考え方を活用させる

よりアクティブに

- ・話し合い活動を取り入れる。

- ・地域の教育資源を活用する。

- ・他の教育活動と連動させる。

アクティブにする要素とのバランスをとり、よりラーニングにするための各要素の質的向上を図る。

- ・ICTを活用し、視聴覚に訴える。

- ・TT授業やローテーション授業等の多様な授業形態を取り入れる。

- ・授業内容を発展させる。
(行事・集会等での発表や活動)

研究の検証

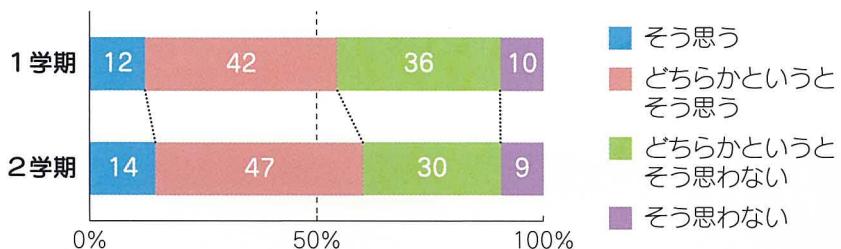
短期間ではありますが、特に成果が見られた項目について示します。

3年生に関しては「道徳の授業が楽しい」の割合が増えてきました。ローテーション授業に対する好意的な意見が目立ちました。

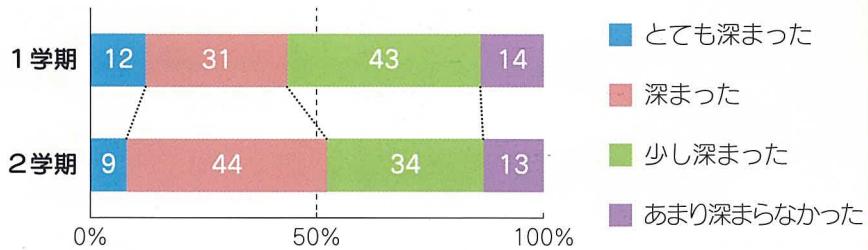
また、1年生では積極的に「熊本の心」を題材として扱ってきたことが、郷土の自然や伝統文化などに関する興味・関心の深まりにつながったことがわかります。

今後さらに、授業改善により、生徒の意欲や関心を高め、豊かな心の育成を図るよう努めます。

道徳は好きですか（3年）



郷土の自然、伝統や文化、先人の生き方や考え方について、道徳教育郷土資料「熊本の心」を学んだり、読んだりして、興味・関心が深まった（1年）



おわりに

阿蘇市立阿蘇中学校 教頭 今村貴文

「真っ暗な 夜に一つの ランタンの 灯りのおもみを 知った災害」

この歌は、熊本地震後に、再開した学校で生徒が作った短歌です。震災後、だれもが傷ついている中で、闇の中に灯りの数が一つ一つ増えていくように、一日一日、学校に教室に生徒の笑顔が戻ってきました。

この「生きる力」を育む研究では、震災からの復興と同様に、全職員が持ち場を守り、スクラムを組んで全力で取り組みました。そして、家庭や地域の皆さんの大なるご支援とご協力がスクラムの後押しとなりました。今後さらに、本校は、目指す生徒の姿の実現に向けて、スクラムを強め、前進していく所存です。熊本県立教育センター、熊本県教育委員会阿蘇教育事務所、阿蘇市教育委員会及び関係者の皆様からは、これまで多くのご助言をいただき誠に有難うございました。今後も厳しくご指導いただけたら心より幸いに思います。

研究同人

星山 晃	今村 貴文	永野亜紀子	山本 恭	山下 信雄	川口 昭一
林 賢一	東 龍次郎	興梠 朝子	松野 孝博	志賀 文美	大谷 美紀
弓掛 貴明	山部 由美	佐藤 展幸	永石 進	坂田 恵美	林田あづさ
池末 淳志	池田 尚子	鮎川 紗江	東 美三子	中山 祥子	猿渡 裕幸
三井 大和	奥井 誉子	石田 陽子	佐藤 祐樹	古澤 友美	菅 大志
中原 悠花	山内真理子	田上 元美	荒木 康志	中島さゆみ	高田 博子
鎌倉 瞳子	眞ヶ田早紀	ザイナヴァ・ナクヒド			

